

第60回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「仕事・生活いきいきプロジェクト」のメンバー

★参加メンバーからの主な声

- 市長が柔らかい雰囲気でご接し下さり、とても楽しく勉強になるひと時でした。
我々の報告をじっくり聞いていただき、それに対する市長のストレートな思いが聞けてよかったです。
- 市長より、「非常に良い取組であり、局内にしっかりと浸透させ、実践しながら進化させてほしい」と激励のお言葉をいただき、職場内での雰囲気づくりなどを所属長と一緒に、頑張っていきたいと思いました。
- 山中伸弥教授のように、お忙しい方ほど情熱を持ってとことんまで仕事をする一方で、メリハリをつけて生活しておられるというお話に共感しました。
- 市長の「明確なビジョンがある上でのハードワーク」という言葉が印象的でした。
ビジョンに向けた意思やモチベーションを持ち、その上でハードワークをこなすことができれば「ワーク・ライフ・バランス」につながれるのではないかと思います。
- 市長が、仕事だけでなく、生活に関しても高い意識を持っておられることを肌で感じることができ、自分のモチベーションも上がったように思います。
- 建設局そして市役所がワーク・ライフ・バランスのモデルとなるように、取組を広げ、続けてほしいと言っていたき、士気が高まりました。緊張しましたが、刺激を得ることができ、参加できて良かったです。

★市長からのコメント

- いきいきと働いて、同時に家庭も大事にする、そしてもう一つ、社会貢献の時間を持つ。社会貢献活動で得たことが仕事や家庭に跳ね返ってくることが理想だ。
- プロジェクトで決めた決まりごとが挨拶からはじまるのが良い。挨拶からはじまり、プライベートな話を含めてコミュニケーションができる風通しの良い職場だと信頼関係が生まれる。その上で、「早く帰ろう」「やり方を変えよう」をお互いに言い合う事が大切。
- 効率が良くなるよう職場を導くのは上司の仕事だが、上司を導くのは部下の仕事でもある。無駄を省く業務改善や、政策提言はどんどん声を上げてほしい。
- こだわりの仕事は大事。徹底的にこだわって議論に議論を重ねることも必要だろう。しかし、明確なビジョンのないハードワークはナンセンスである。
- これからの社会は、働きながら子育てや介護の時間が取れることが大切である。そういう社会の現実により役所として取り組む必要がある。
- 市役所の職員が率先して真のワーク・ライフ・バランスのモデルを示すことで、京都のまちは変わる。「仕事・生活いきいきプロジェクト」では、努力して質の高い提案をしてくれている。是非とも、この取組を深めてくれることを期待している。